

今こそ、生徒の本分・先生の本分を考えよう

—ロシアのウクライナ侵攻を考える・ウクライナの平和を願って—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が開始され、5月24日で3か月目、6月には100日目を迎えますが、どう考えますか。

A：ウクライナの周辺諸国で軍事演習をしていたら、そのままウクライナ国内に侵攻。多くの都市や社会施設を爆撃し、多くの死傷者を出した上に、4000万人のウクライナ国民のうち1000万 명이、2か月もしないうちに国内外への避難を余儀なくされているのを目の前で見ているのですから、驚くばかりの毎日です。

Q：開倫塾が中心となって行っている開倫ユネスコ協会では、3月17日から3日間、塾生アンケート調査をしたそうですね。

A：はい。ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1か月を迎える3月24日までに、塾生が何をどう考えているかを知るため、3月17日から3日間ですが、緊急アンケート調査を実施しました。完全自由記載の3日間のアンケート調査でしたが、806通もの回答を頂きました。多くの皆様がアンケート用紙の裏まで使い、熱心に自分の意見を書いてくださいました。

*開倫塾のHP(<https://kairinjyuku.jp/>)に全文掲載中です。是非、御覧ください。

Q：開倫ユネスコ協会では、ロシアによるウクライナ侵攻から3か月目を前に、「ロシアのウクライナ侵攻を考える・ウクライナの平和を願って」をテーマに「緊急文芸大賞」の作品を募集しているそうですね。

A：(1)はい。2001年に正式に設立し、今年で21周年を迎えた開倫ユネスコ協会では、設立前から「童話大賞」など、文芸大賞の作品を毎年募集、表彰式を行ってきました。今年も9月まで作品を募集し、10月23日に表彰式を行う計画を立てていました。

(2)2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、3月17日から緊急アンケートを実施したところ806通もの熱心な回答を頂くことができました。

(3)塾生の関心が極めて高いことが判ったので、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり3か月目に当たる5月24日までに、開倫ユネスコ協会が毎年行っている「文芸大賞」の「緊急版」を行い、塾生はじめ市民の皆様の思いを作品にして表現して頂こうと考えました。

Q：どのような分野で作品を募集しているのですか。

A：(1)「エッセイ大賞」「詩・短歌・俳句(ポエム大賞)」「デザイン・イラスト大賞」「NIE、教育に新聞を・新聞スクラップブック大賞」「書道大賞」の5部門です。

- (2)テーマは「ロシアによるウクライナ侵攻を考える・ウクライナの平和を願って」です。
- (3)〆切は5月19日(木)、代表的な作品は、5月24日のロシアによるウクライナ侵攻3か月目から順次HPなどに公表する予定です。5月29日(日)の開倫塾主催全国模擬授業大会記念大会(佐野市文化会館)で展示、新聞社などマスコミの方にも発表いたします。
- *日本ユネスコ協会連盟では、ウクライナ支援の募金活動を行っていますので、会場でも募金活動をさせて頂く予定です。
- *代表的な作品は、印刷して開倫塾の各校舎や学校などにも配付、これからの議論のきっかけにして頂ければと考えています。

Q：「今こそ、生徒の本分・先生の本分を考えよう」ですか。

- A：(1)学習塾、予備校、私立学校の先生方がその本分・役割・社会的使命を考えれば、「このロシアによるウクライナ侵攻」に対して、生徒とともにできることはたくさんあります。
- (2)今回のロシアによるウクライナ侵攻は、4000万人のウクライナ国民から祖国を奪い、1～2か月の間に1000万人もの人々を国内外へ避難させたものです。
- (3)国際社会によるロシアへの批判は極めて強く、ロシア本土への爆撃など軍事制裁はないものの、それに匹敵するような徹底的な経済制裁が多く、西側諸国により行われています。このロシアによるウクライナ侵攻の結果、ウクライナは焦土と化し、「新冷戦の始まり」、最悪の場合には「第3次世界大戦」の事態が予想されます。
- (4)そこで、「今こそ、生徒の本分・先生の本分」とは何かを、生徒は生徒、先生は先生、自分自身の力で考え行動すべきと考えます。

Q：具体的にはどういうことですか。

- A：(1)少し物足りない人がいるかもしれませんが、アンテナを少し高く張りめぐらせさえすれば、日本では多くの新聞・雑誌を自由に読むことができます。ウクライナで、また、世界や日本で何が行われているかを知ることができます。
- (2)1日に一定時間は新聞をしっかりと読み、自分の力で考える、批判的思考能力を身に着けることに挑戦しましょう。
- (3)インターネットを活用すれば新聞各社だけでなく、時事通信社や共同通信社などの通信社や、The Japan News, The Japan Times, The Mainichiなどの英字新聞、CNN, BBC, NHKなどの英語放送などにもアクセス可能です。
- (4)1日2～3時間、インターネットで英語の新聞や放送に接していれば、それだけで大学共通テスト、大学独自テストの英語は、満点が取れるほどの読解力が身に着きます。
- (5)読んでわからないことは聞いてもわかりませんから、英語によるリスニング力も身に着き、即超難関大学の受験勉強となります。
- (6)「ウクライナの平和を願い」、「今こそ、生徒の本分・先生の本分とは何かを考え」、世界中から情報を収集し、少しでも具体的な行動を取ることが大切かと考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

- A：僭越とは思いますが、今月も先生方がお読みになれば必ず参考になると確信する本を、何冊か紹介させて頂きます。

- (1)1冊目は、グレゴリー・ベイトソン著、佐藤良明訳「精神と自然(Mind and Nature)ー生きた世界の認識論」岩波文庫、岩波書店 2022 年 1 月 14 日刊です。世界の名著の岩波文庫による待望の復刊です。同著同訳「精神の生態学(Steps to an Ecology of Mind)」新思索社とともに、行きつもどりつしながらじっくりとお読みください。「エコロジー」の古典である「精神と自然」は、人類にとっての大切な贈り物です。
- (2)2冊目は、クリントン・ロシター著「立憲独裁ー現代民主主義諸国における危機政府」未知谷 2006 年 11 月 1 日刊です。日本国憲法に欠けている国家緊急権を考える際に最も参考になると考える「立憲独裁」の古典中の古典です。米・コーネール大学で憲法学で博士号、同政治部長。
- (3)3冊目は、ロザリン・ヒギンズ著「ヒギンズ国際法ー問題解決の過程としての国際法」信山社 1997 年 9 月 10 日刊。エール大学で法学博士、国際司法裁判所裁判官。ロシアによるウクライナ侵攻が国際法違反かどうかを考えるときに参考になります。
- (4)4冊目は、遠藤誉著「ウクライナ戦争における中国の対ロシア戦略 世界はどう変わるのか」PHP 新書 2022 年 4 月 16 日刊です。ロシアと同様、中国とも、今後は冷静に向き合わなければなりません。
- (5)5冊目は、ヨーゼフ・シュンペーター著「資本主義、社会主義、民主主義 I・II」日経 BP クラシックス 2016 年 7 月 19 日刊です。「新しい・資本主義」を語るのなら、アダム・スミス「国富論」「道徳感情論」「法学講義」(いずれも岩波文庫)とともに、シュンペーターの本著は、必読すべき古典です。
- (6)6冊目は、「老子」岩波文庫です。四書「論語」「孟子」「大学」「中庸」や「五経」「貞観政要」だけではあまりにも偏りすぎますので、「老子」「莊子」をじっくり読み込むことで人間としてのバランスが取れます。「足るを知る」ことの大事さがよくわかります。
*ロシアや中国の為政者に最も欠けているのが、孔子や老子の思想と考えます。
- (7)7冊目は、アンドレ・モロア著「ドイツ史」論創社 2013 年刊です。「フランス史」「アメリカ史」「英国史」各々新潮文庫です。フランスの一時代を代表する思想家による各国の通史。これほど読んで面白いものはありません。外交官岡崎久彦著「陸奥宗光(上下)」「陸奥宗光とその時代」「小村寿太郎とその時代」「幣原喜重郎とその時代」「重光・東郷とその時代」「吉田茂とその時代」(いずれも PHP 文庫)や、日本政治史の岡義武著「明治政治史(上)(下)」「転換期の大正」「国際政治史」「山県有朋」「近代日本の政治家」(いずれも岩波文庫)は、一人の著者が心血を注ぎ命を削り、後世に書き遺したものです。血わき、肉おどります。ウクライナの平和を願い、読むのにふさわしいものです。
- (8)最後に、升味準之輔著「比較政治 3 東アジアと日本」東京大学出版会 1993 年 7 月 27 日刊を紹介します。本著は、「日本と中国、朝鮮、台湾、インドネシア」が収められ、「比較政治 1 西欧と日本」「比較政治 2 アメリカとロシア」の続編です。「ロシアによるウクライナ侵攻」のこの時期に読むのに最もふさわしい作品です。今こそ真剣に 1 つ 1 つの国や地域と問題解決に向けての過程(プロセス)を歩まねばなりません。そのために学ぶべきことは山ほどあります。

2022 年 5 月 5 日記